

平成 26 年度第 1 回葉山町総合計画審議会 議事録 [概要版]

日 時 日時：平成 26 年 5 月 30 日（金）14 時～17 時 20 分
開催場所 葉山町役場庁舎内 協議会室 1
出席者 **委員**
白井会長、浦上委員、鹿嶋委員、北村委員、近藤委員、高梨委員、田辺委員、
福本委員、福安委員、藤井委員、宮内委員
事務局
小山総務部長、伊藤企画調整課長、和嶋副主幹、新倉副主幹、(株)ぎょうせい

議事日程

- 1 会長あいさつ
- 2 諮問
- 3 議題
 - (1) 第四次葉山町総合計画基本構想（案）について
 - (2) 「第四次葉山町総合計画」策定に向けた中学生アンケートについて
 - (3) 基本計画書の大まかなイメージ（案）について
 - (4) その他
- 4 閉会

配布資料

資料 1 第四次葉山町総合計画基本構想（案）
資料 2 「第四次葉山町総合計画」策定に向けた中学生アンケートについて
資料 3 基本計画書の大まかなイメージ（案）
参考資料 第四次葉山町総合計画基本構想・基本計画の構成（案）
～前回（形成 25 年度第 3 回）配布資料「資料 5」～

（会長あいさつ）

会 長 平成 26 年度第 1 回の葉山町総合計画審議会を開催したいと思います。本日は、26 年度に入った第 1 回目ということになります。前回の審議会の結果を含めて事務局のほうで作業をしてきていただいておりますので、それを受けて今日の審議会の会議を進められればと思いますので、よろしくをお願いします。

（会議の成立について及び欠席委員の報告）

事務局 本日の審議会でございますけれども、11 名中、10 名の委員の方々にご出席していただいておりますので、当審議会の規則第 5 条第 2 項によって会が成立していることをまずはこちらでご報告をさせていただきます。

（傍聴について）

事務局 事務局において傍聴者の募集を町ホームページで行いましたところ、1 名の傍聴希望がございました。

議題（１）第四次葉山町総合計画基本構想（案）について

（説明）

事務局より資料１に基づき説明が行われた。

（質疑応答）

会 長 確認なのですが、今日三つ議題が用意しておりますが、残りの二つはそれほどボリュームがありません。一番今日大切なのは、総合計画の基本構想について皆さまからご意見をいただくことかと思えます。

委 員 言葉の書き方のところで、人という漢字が書かれていたり、ひらがなであるところ、まちという字も漢字で書いてあったり、ひらがなで書いてあるところがあるのですが、そういったところの定義がどういうふうな整理をしていくべきなのかということです。また、基本理念の一番最初の５ページの２段落目のところで、私たちの責務ですという言葉は出るのですが、この私たちというのは一体誰なのか、葉山町行政がということなのか、あるいは、葉山に暮らす全ての人がというものと同意であるならば、なぜここで言い換え、最初が私たちなのかというところ、冒頭の部分のその言葉がいくつか気になりました。もう一つだけ個別のところなのですが、１０ページの３の取り組みの方向、子育てというふうになっているのですが、こちらの冒頭で妊娠・出産期からというのはいいのですが、なぜ思春期までというふうに書いているのでしょうか。例えば、青年期の子どもを抱えている親も悩み事がある場合もあるかなということも含めると、先ほどのお話では若い世代をサポートしていくという意味では、恐らく高校生、大学生、あるいはそれぐらいの年代の子どもと親との関係をサポートしていくのも一つ入るのではないのでしょうか。妊娠・出産期から親子がというふうな形で上限を設定する必要はないのではないかというような気がいたしました。

会 長 後のほうの意見は、妊娠、出産期から親と子が健やかに成長し、とつなげてしまえばいいので、その思春期までという言葉があえて必要なのか、行政施策の関係でここまで一応一回切らないといけないという話なのか、それとも、ここでは基本目標としての話ですので、思春期までを取ってしまっても大丈夫なのかということで考えてもらえばと思います。あとは、私たちの部分は、私たちは誰なのかという話と、それからまちがひらがなのまちと街ですよね。

委 員 はい。

事務局 本文中の例えば、５ページの基本理念で申しますと、分け方として、その本文中のところは、例えば文章として捉えて、漢字の「人」。タイトルでタグが付いているところ、私個人的には、ひらがなの「ひと」というふうには本当は使い分けるべきなのかなと思っております。また、今日追加でお示しさせていただいた資料の中で、まさに、まち、街、町の表記について、後段のほうで提出させていただいているものがあると思うのですが、やはり、内部のいろいろヒアリングの中でも細かいところの積み上げはなるべくその文章の中にとけ込ませるようにはしているのですが、どうしてもいろいろな意見があり

まして、葉山町にとってはひらがながいいのではないかという意見が多かったのです。あまり使い分けてここでの街の表記はこのような意味をしていますという注釈を付けるのも大変な話ですので、やはり今おっしゃられたように、人とか街というのは統一感を持って記述すべきなのかなというふうには思っております。その辺も例えば、葉山町にふさわしいその総合計画としては、例えばひらがなの「まち」のほうがいいのではないかとか、人も例えば「人」という漢字よりも、ひらがなの「ひと」のほうが、温かみが出るのではないかというようなお話をまたしていただければというふうには思います。それから、例えば青年期はどうするのかという今の高梨委員のお話については、どうしても私も行政分野で、どここのところまでどこが所管しているかというのはどうしても頭から離れないのです。この下の基本計画と、それから最終的な実施計画の事業としてぶら下がってくるというところが、たえず頭の中にあるのです。ですから、例えば行政として、青年期に対する相談事業というものはあるのでしょうかけれども、町の財源を使って青年期の事業を実施していないというものについては、どう書くべきかというところがやはり出てきます。町の計画ですから、町の取り組みとしてやるものというところはどうしても主眼において書いてしまいますと、青年期というものがたまたまですけれども、ここは自然と抜け落ちたのかなと思います。ですから、先ほど会長からのお話で、妊娠から成人に至るまでの親子が健やかに成長していくというような表記で拡大的な解釈ができるような表記でも基本構想ですから、それでもいいのかなというような感じはいたします。

会 長 他に。

委 員 上を切る必要は特にないのかなということでしたので、臼井先生のおっしゃってくださったように、例えばから親と子がというだけにしてしまうのも一つかなと思うのですが。

会 長 今の部分は、今課長さんのほうから答えていただいたことを前提に、次回出せるかどうかは分かりませんが、検討していただくということで整理したいと思います。ついでお話をしますと、街はやはりやめたほうがいいかなという気がします。特定の道沿いの家々を含んだ、そのエリアを示してしまいますので。極めて特定の場所をイメージした中心市街地の住宅が密集している通り沿いのエリアというようなイメージですから、やめたほうがいいかなと思います。それから、人に関しては、カタカナの「ヒト」というのは生物学的な人を指すのです。それで、ひらがなの「ひと」というのは、一番曖昧で、まだ尊重すべき個人として成長しきっていない、赤ちゃんなども入れた全部を指して、「ひと」と指すのです。漢字で人と書いたときには、個人として尊重される人格として育ちきった人というようなイメージなのです。ですから、例えば人を育てるといったときに、まだ人になりきっていない人を育てていくという意味であればひらがなですし、あるいは、人を育てるというのは、完成した人にしていくのだという意味でいけば、「人(にん)」を育てるという表記になります。このような使い分けがわりと業界的には、社会科学系の業界的には多いです。普通はカタカナは絶対使いません。社会科学の場合には、生物としてのヒトは対象にしないですから、参考にしてください。他にいかがでしょう。

委 員 表記の関係で、数字の扱いなのです。まず、9ページのところを見ていきますと、1「人・

暮らし・街づくり編』基本理念1、下の基本目標1。その下の1取り組みの方向学校教育というようにすべて同じ1が使われています。私も読んでいった中で、この体系図のほうを振り返りながら見ていったときに、その体系図に書かれている、基本目標1は普通の1を使っています。次の下に というふうに書かれていますよね。そのように1という数字の使い方、 という使い方、場合によってはそれをここで合わせていくとわれわれも読みやすいかなということの一つ感じました。従いまして、他のところでもローマ数字なり、括弧のあるものや、ないものや、そのような数字の表記の仕方を工夫しておく読み手が分かりやすいかなということを少し感じました。これがまず一つです。

会 長 ありがとうございます。どうぞお願いします。

委 員 もう一つは、3ページのところをご覧ください。第3章計画の構成と期間です。その次の1計画の構成、その下を読み始めたときに、少し違和感を感じたのです。なぜ感じたかと申しますと、「本計画は、基本構想、基本計画、実施計画で構成します」ということです。最初の本計画はこれはなんだろうなということ振り返ってみたのです。そうしたときに、この本計画というのは、この総合計画、この第四次の総合計画を指しているのだなということあらためて気が付いたわけなのです。最初は本計画のところ何か脱字なのかというふう読みとってしまったわけなのですけれども。前の第三次葉山町総合計画の基本計画の中を見ていきますと、総合計画という文言、第三次総合計画、この場合は第四次総合計画ですけれども、その辺の総合計画なり、第四次総合計画を1ページのところから少し整理して、入れていくと分かりやすいのかなということを感じました。

会 長 ありがとうございます。最初に数字の表記ですけれども、これはおっしゃるとおりで、最後のできあがりに向けて数字を使い分ける、表記の仕方を使い分けるほうが確かに読みやすいですから。それはタイミングを見て直していただければと思います。それから、3ページのところの1の計画の構成の後の「本計画は」から始まるところを見てのご意見ですが、1ページから3ページにかけて特に2ページと3ページのところが主になるのかと思います。ここでは例えば、最新の社会動向を反映した総合計画としていますとやったほうが、あるいは、第何次まで入れるかどうかですけれども、少なくとも総合計画というフレーズで固めてしまったほうがいいような気がします。もし、必要でしたら、第四次葉山町総合計画とフルで書いていただいても構いませんし、少なくとも計画だけではないほうがいいと思います。表題の部分、計画の構成と期間、計画の構成や計画の基本姿勢とここにまで総合計画フルで入れろとは言いませんが、字の文章のところでは、計画がこれであるというものをあらためて確認をする必要がないように書いてしまって全く問題ないのではないのでしょうか。こちらはそのような扱いをぜひさせていただければと思います。あといかがでしょうか。

委 員 やはりこれからの町のことを考えますと、やはり人材は本当に町の宝になっていくのだらうと思うのです。そのように考えますと、最初に人を育てる葉山、人を育てていくという観点で、当然とても重要なのかなと思うのですけれども。その一方で、いわゆる町に対してもっと貢献して下さる人を例えば中からではなくて、外からでも引きつけるというような、人を引きつける、魅了するということです。育てるだけではなく、外からも入っ

ていただくというそのような観点も必要なのではないかというふうに思いました。

会長 今のご意見は育てるだけではなくて、葉山へいろいろな人が入っていただけるような条件整備の要素をどこへ書き込むかという話ですよ。方法論としては、人を育てるところに入れるのではなくてもいいですよ。この 20 の項目がありますから、その中にきちんと今もお話いただいたことが明確に出ていればと思います。先ほどの最初の人口の推計の段階では、町の人口は長期的なトレンドではやや減少します。でも、できるだけ現状の人口規模が維持できるようなことは計画の基本的な考え方の中に入っているという説明を事務局のほうからいただいたわけですから。そのことが基本目標なり、あるいは、もしかすると基本目標を受けた何行かの書き込みの中にそのようなことを受けたものがあつたほうがいいのではないかというご意見だろうと思います。それは具体的にどこかの場面で例えば、基本目標の 1 の例えば子育てなどもこちらに入ってくると思うのですけれども、それを実現することで、そのような環境にはなるのですけれども。その部分をどこかに具体的に書いてあげる、外から呼び込むのではなくて、積極的に呼び込むというよりは、来やすい環境をつまらぬいろいろな若いご夫婦が転入しやすい環境を作ってあげるなど。とにかく魅力ある町であることを外へ発信しながら、受け止めてもらうような環境をどこかに書いたらどうかと思います。

委員 今先生がおっしゃってくださったようなことで基本目標の 7 のだれもが住みやすく、暮らしやすい環境が整っているのに、従来からの住民だけではなくて、新しく入ってきた人も住みやすいというような趣旨のものを入れこんで、居住環境が何かのところでも少し入るか、あるいは、基本目標 9 が産業経済のみになっていますが、その辺りにするかという、「街が躍動する」のほうに入れてもいいのかなというふうに思います。

委員 私はもっと大きな総合計画の作りで少し確認したいのですけれども。さまざまな部局が横断的に取り組むことだと思うのです。今回の作りを見たときに、それぞれの所管と申しますか、部局で縦にうまく分けたような作りになっているのだと思うのです。この所管できれいに分けきれないことがあるではないですか。例えば、子育てと高齢者の健康の問題です。介護の小規模多機能などです。もしくは、環境政策と一次産業のその経済のところをどのようにマッチングさせるのかなどと部局横断的なことがあるではないですか。作りの問題で、その基本計画、基本構想、実施計画がありまして、分けきれないものを横断的にやるようなプロジェクトのような、そのような作りで総合計画を回しているようなところもあるのですけれども。そのような考え方というのは葉山町としてお持ちではないのですか。

事務局 そうですね。あえて縦割りにしましたのは、実は企画調整の中は機構改革の事務分掌、組織機構の仕事もしております。ちょうど 27 年のこの計画年度が始まることから、機構改革も合わせて行い、組織機構が変わる予定なのです。そのときに、例えばいろいろな側面において、縦割りの行政というのはいいと思っているわけではなくて、この後どのような運営をしていくかということにもよるのですけれども。でき得れば、この柱はこの部でやっていて、その部が責任を持って進行させていく総合計画、目指そう値、目標値に向かって責任を持って各部に所属している課、それから部長級職員、ひいてはその町長が計

画的に掲げたものの目標に向かって努力をしていくのだというところをきちんとしたものの進行管理をしていく。その進行管理の面でいきますと、やはり作り方としてはきちんと縦で分かれていたほうがいいです。ただそれに今近藤議員がおっしゃるように、横断的に関わっていかねばいけない部分がございます。例えば、企画調整課は少しなんでも屋みたいというところがありまして、特命事項に関することというのが企画調整課の中に入っているのです。ですから、ポンと出てきたようなところは、取りあえず私どもの課にあてがわれて、そこから関係している所管に、今でもこのものに関してという形で横断的なその横の連携みたいなものはそれなりにできているつもりなのです。ただ、やはり作り方としては、先ほどからお話しましたとおり、やはりその部の目標設定というものをきちんと持っていただいて、そこに向けて計画期間の中で努力をしていきます。例えばその努力に達しなかった場合には、それなりの理由があるでしょうから。その理由を検証した上で、当初の目標をふれずに、時期の計画期間の中でまた努力を重ねていくというような、いわゆる実効性のある総合計画にするために、これはどこが所管している事業だというのが最終的に実施計画レベルになってきますと分かりやすく、一般の町民の方、例えば中高生が見てもなんとなく分かるようなものにしていきたいなというような思いがあり、今のご指摘の部分にたどり着いてしまっているというようなことです。

委員 言わんとしている意味は分かるのですけれども、今後、基本計画をまた議論していくことになるではないですか。そうしますと個別のその課題について皆さん議論することになっていくと思うのです。そのときに、基本構想でこちらを飲みこめないのではないかなという議論なども出てくるのではないかなと思っているのです。これは進行管理の仕方なのですけれども、今日はその基本構想まで決めてしまう、おおむね見通しをつけたいということなのですね。ですから、そこは今後の議論を得て、きちんと決めるというようなこともありなのかなと思います。

会長 いいでしょうか。当たり前のことですけれども、基本計画をあるレベルまで詰めていかないと、基本構想は本当に大丈夫だったかは分からないわけです。そのような意味では、こちらであるレベルで合意してもそれは仮置きした状態ですよね。もう一つは、今近藤委員がおっしゃられたのは、多分逆に発想しなければならぬと思うのです。つまり、町にとって大きな課題はなんなのかと考えたときに、その課題が先にあって、その課題に合わせて部局を作ればいいのか。組織などはそれに合わせて作ればいいのか。つまり、組織が先にあるのではなくて、課題に応じて組織を作るのだということさえ町が意識をしてくれたのならば、今の話はかなり解決する話です。例えば町の組織は、今は総務部が担当しているわけですが、総務部があって、何部があってということがもう固定で動かないということではなくて、課題解決のためにどのような組織がベストなのかということは、総合計画を受けてもう1回町に投げ返されるわけです。総合計画の諮問をわれわれがすることで、町は今度は行政運営をどのようにするかということが問われるわけで、そのときにわれわれの希望は、課題を整理するのにもっとも効率的な組織を運営を考えてくださいということが注文として付くということで考えていただければと思います。どうぞ。

委員 また少し大枠の話なのですけれども、基本構想ですので全部細かく決めると動きづらい

というのもあるかと思しますので、それにしても、本日の議論の中で、町の将来像で例示が三つあるではないですか。ここはなんとなく固めていきたいのであろうと思うのです。三つの基本理念をもとにこの町の将来像ということを作りこんだのでしょうか。これはあくまでも意見なのですけれども、二つございます。一つは、行政運営編ですのでみんなで支えるというのがあるではないですか。これはのちのその人口トレンドの話もあるのですけれども、これから人口減少と高齢化で、なかなか行政運営は今までおりにはいかなくなるはずなのです。そのときにどうしたらいいのといったときに、やはりみんなで支え合う、近隣の市町などという話も先ほどございましたけれども、ある意味でのみんなで支えるというこのキーワードをどこかに理念にもございますし、入れてもいいのではないかなと思しました。

会 長 すいません。入れるというのはどこに入れるのですか。

委 員 町の将来像のところですか。こちらに文章が三つ例示が出ております。支えるというキーワードは葉山らしいですし、いいのではないかと思います。これはあくまでも私の個人的な意見ですので、理念をベースに作っているのでしたら、そのような支えるというものがあってもいいのではないかなと思しました。あともう一つは、町にさまざまな都市宣言があるのだと思うのです。平和都市宣言や、何かそのようなものも大事な町の宣言ですから、リンクといいますが、相互、関連していないといけないと思うのですけれども、何かそういったことなども関連して例示が出ているということではないのでしょうか。

事務局 先ほどの1枚の紙になるのですけれども、一番下に参考として第一次、第二次の将来像というのは第一次から二次に移行するときも変更してございません。「こころ豊かな美しい伝統のまちづくり」ということです。その下の第三次が現行の計画で、「海とみどりにひろがる交流文化のまち葉山」となっているのですけれども、例えばこちらの三つの将来像については、内部の職員たちから出てきた案もございます。ただ、町民のワーキンググループで、やはり葉山の一番の特色、魅力というものは自然が豊かなところだというような話がございました。そのようなところを葉山町のやはり職員の中でもいろいろな意見がございまして、葉山はやはり他の市町とは少し違うのだというような話があります。それで、前段のこの基本理念の中に、町政要覧に書いてあるようなことが避暑避寒の地と知られて、多くの名士の別荘や居宅が設けられました。現在でも御用邸の存在や美しい景観によって静かで品のある美しいまちなのだというこの文言を入れて、まことに結構だと部長級職員からの意見もございます。他の市町をどう言うわけではないのですけれども、よそであるような一般的な総合計画ではないのだというような、そのような意見がやはり内部からは出てきたところがあります。他の自治体のように何々を創造する何々の町や、何々を宣言する何々の町というものはよくあるのですけれども、自然が良くて、町に温かみがあって、しかもあまり硬いイメージではなくて、しゃべり言葉のようなそのような将来像のほうがいいのではなからうかというような、そのような意見があったところで、私たちはこれを非常に迷っているところなのです。結局、先ほどの話で、後先の話になってしまうのですけれども、例えば、一般の町民の方々に公募してみようかというような話もあったのですけれども、そうしますと、誰が審査をするのか。申し訳ないのですけれども、ま

たご苦労いただいて、当審査会で審査してもらおうかというような話もあったのですけれども。かなり意見が割れてしまうことも考えられるということもございます。ですから、やはり一次、二次のものを継承しながら、葉山町にふさわしいものとするべきなのかなということなんです。今のところ最終的な全てのその基本構想が整う前に、この町の将来像をきちんと固めていくということは非常に手探りでやるような状況がございます。やはり審査会、それから議会のほうにもある程度おおむね認めていただいたところで、正式にいくつかの案の中から決定していくようになるのかなと考えております。

委員 もう一つあるのですけれども、今課長からもお話があったように、美しい自然という話がありました。海のワードが結構出てきているではないですか。基本目標を見ていったときに、水環境があったでしょうか。海のことはこれだけ前段で言っているのに何も入っていないということを違和感と申しますか、何かあってもいいのではないかと思いました。意見として申し上げておきたいと思います。

会長 分かりました。最後に近藤委員がお話いただいたのは、この後の作業の中で例えば少し文章を直すなり、あるいは、基本計画のところでの今話の項目を入れるかということはこの先の議論の中でしていければと思います。一つだけ、これは私からのお願いですけれども、5 ページの基本構想を受けた第 1 章の基本理念の中に、先ほどの近藤委員の話ではないのですけれども、その協働によるまちづくりを進めるのだということをつ二つ目のパラグラフの中でいっているのではないのでしょうか。例えば 3 行目で、暮らすすべての人がまちづくりの主役となってとそこまで書いてあるわけですから。つまり、町と町民が一緒になって計画を進めていくのですから、町を創造していくのですから、そのような趣旨のことをもう 1 回ここで宣言しているのではないのでしょうか。つまり、2 ページのところ、町民と協働で推進できる計画と 1 回うたっておきながら、5 ページのところの基本構想の基本理念で見ますと、それが前段のところドンと入っていないということがやはり気にはなります。ですから、もう 1 回そこでうたったほうがいいと思います。それから、基本計画や実施計画になったときに、主体がどこなのか、つまり、これは町の総合計画ですから。当たり前ですけれども、町が全部やるだけではなくて、町民と一緒にやる部分もあるわけですし。あるいは、町は町民の活動を支援するという形で、後方支援にわたるケースもあるわけですね。全く町が何もやらないのでしたらそれは計画に書けないと思いますけれども、少なくとも町は、後方支援、町民の活動を後方支援するのか、町が前に出てやるのかというようなことの区分けを基本計画ないし、実施計画のところでは各施策なり事業について、したほうがいいと思います。それをしてあげることで、今の協働の姿勢というようなもの、2 ページのところの一番下に書いた町民と協働で推進できる計画の意味がより強くなると思うのです。それは、先ほど近藤委員がおっしゃられたことにつながるのかなという気がします。そうしていただければと思いますが、いかがでしょうか。それから、2 点だけです。一つが例えば、今 5 ページの話が出ましたけれども、第 1 章の最初のパラグラフの 3 行目で「静かで品のある、落ち着いたまち」とあるのですけれども、鉤括弧というのはどこかに書いてある、あるいは、すでに書いてあるものを引用するときに鉤括弧を一般的には使うのです。ですからこれはどこなのかと、私にとっては実

はとても気になるのです。他の部分でも鉤括弧を使っている箇所がありまして、例えば10ページの3の2行目です。「将来このまちで子どもを育てたい」これは産み、育てたいというほうがいいと思います。それで鉤括弧閉じるになっているのですが、この鉤括弧というのはどこから出てくるのかというのが少し気になりまして、その鉤括弧の精査があったほうがいいということが一つございます。それから、基本目標を受けた書き込みのところ、これは先ほど数字の記載でご意見があったのですけれども、1(取り組みの方向)学校教育、その下に確かな学力、豊かな心と入っているのですけれども、これは逆なのではないでしょうか。このような順序だからはじめから行政分野に合わせているように見えます。例えば、基本目標のところの最後に教育文化とあるのも、実は、これはメモ書きみたいなものだというふうに理解をしたほうがいいもので、もしかしたら最後は基本計画から消してもいいのかもしれないですよ。そうすると、はじめから何か縦割りに作っているように見えないわけです。しかも、1で取り組みの方向は、確かな学力、豊かな心、健やかな体はぐくまれていることとした場合に、そのメモとしてさらに学校教育と括弧があるので、それはメモ書きなのです。そのほうが、近藤委員がおっしゃられたようなはじめから組織を意識して、枠組みを作ったというふうに見えませんが、最後に消したほうがいいのかどうかは最後に議論すればいいので、少なくとも私は1の(取り組みの方向)学校教育というものと、その下の行を入れ替えたほうがいいように見えたのですが、いかがでしょうか。そうすれば、最後の学校教育はいつでも消せるということです。取り組みの方向は学校教育ということよりは、確かな学力、豊かな心等がはぐくまれていること。これが取り組みの方向であれば、文章を読んで誰でも理解できますよね。でも、取り組みの方向で学校教育と書かれたらなんだか分からないですよ。町民の方から見たら、方向といたら何を指すのかと書いてあげたほうがいいわけですから。もしよろしければそれは入れ替えてください。それだけでもイメージはずいぶん違いますよね。少なくとも縦割りにしたのではなくて、はじめからニーズに沿って20の項目を考えた。それを組み立てていったらこのようになっていますというような。それをどのような組織で町は対応しますかということで流れていけばいいのです。他にご意見はありますか。

委員 基本構想というのはかなり、十分できていると思うのですけれども、ただ一つ、今後、外国人が葉山にはかなり来ますし、これから高齢社会になってきますと、どうしても外国から労働力を入れたりすることが必ず起きてくると思うのです。今葉山でもかなり夏などになりますと、いろいろなところから外国人が来て、なぜかと申しますと、近藤さんがおっしゃったように、葉山というのは非常に一色海岸など非常に景色がいいです。CNNの65位に入ったということです。世界的にも結構知られているのではないかと思います。そのような観点から考えても、やはりもう少し外国人のことを考えて、葉山にファクターとして、外国人が住みやすいとか、外国人が生活しやすいとか、そのようなことも一つ考えていったほうが将来の葉山のために非常にいいのではないかと思います。不良外国人も結構おりますけれども。そのようなものはできるだけ排除しておいて、優良な外国人に関しては、葉山というのは非常に雰囲気も良いですし、一つスペースを作ったほうが葉山としてメリットがあるのではないかと思いますので、そこら辺をお考えいただければと

思います。

事務局 実は今日の午前中に、三浦半島圏域など企画担当課長会議というものがございました。例えば、神奈川県内の道路網の整備を進めていくのだということです。首都圏からも近い海岸があるこの湘南地区ですとか、横須賀、三浦地区というのは非常にコースアクセスも良くて、足を運びやすいです。ただ、今までそんなに PR をしてこなかったというところがありまして、なかなか観光客もリピーターが少ないのだというような話があったのです。一番の原因は宿泊施設が乏しいというところがありまして、そのような状況がございます。道路網を整備しても、宿泊施設がないとなかなか観光客は来ません。あとは横須賀市も定住促進策、それから先日も新聞で衝撃的な三浦市が消滅団体になるかもしれないというような記事がありまして、今日も実はその話題が出ていて、非常に迷惑な話だというような政策担当の課長はおっしゃっていましたけれども、やはり、外国人も登録法は変わって、今までのとおり外国人登録というような別の枠ではなくなりましたので、葉山町には確か少し前ですと、260~70 人ぐらいの外国人登録の方がいらっしゃったというところもあります。おっしゃるように、外国の方々も住みやすい環境というのが当然必要になってきますし、例えば、横須賀市や厚木市のようなところはある程度そのような環境というものが整っていると思います。オリンピックの開催も決まり、当然別の会議で交通関係の会議などでは、電車、バスの運行環境について、これからどんどん積極的にやっていくのだという話もございました。葉山町も環境の良いところですので、その辺については少しずつそのようなものも考えていかなければいけないかなと、申し訳ございませんが今はその程度です。

会長 今の話は、基本理念の2を受けた、取り組みの方向6で福祉となってしまうのですけれども、支えあいによって、すべての人が安心して暮らせている。この中に外国人が入るような記載を、下の説明ですという方法はあるのです。ただ、そのときに、例えば、基本目標の最後に、保健、医療、福祉と入っていたり、あるいは、取り組みの方向で福祉だけでは駄目なのです。ですから、8 ページのところの4の基本目標で、将来像、基本理念、政策の分野、基本目標とあるのですけれども、最後の段階では、政策の分野は取らなければいけないかもしれません。これがあることで、その下の基本目標が非常に矮小化してしまいます。これがないと、実は基本目標、基本構想としては基本目標があるだけで、この政策の分野にとらわれずにあるから、こちらのどこかに引っかければ次の見直しのときに、計画なり、自主計画の中で項目を入れ込んで何かすることができるはずですので。最終的には、この政策の分野は取ってしまったほうがいいのかもしれませんが、そのような感じがしますよね。お分かりいただけましたか。

委員 先ほどおっしゃっていました、その思春期までというのは、私は子育てのほうから参加しておりますので、多分子ども育成課を頭に置かれてのことだと思うのですけれども、多分児童という概念が0歳から18歳までということになっているので、取りあえず思春期までという言葉が入ったのかなと思うのですが、18歳は思春期を少し過ぎているかなという感じもしますので、一応その後に親と子が健やかに成長しというものがありますので、先ほどのご意見のように思春期までという言葉は抜かしたほうが私はいいかと思います。

す。また、その前の9ページ目なのですが、上の「確かな学力」「豊かな心」この言葉を決めたときに多分私は参加していなかったもので、今頃になってと言われてしまうかもしれないのですが、この「豊かな心」というのはとても大事だとは思いますが、けれども、昨今のお子さんたちの心がひ弱というところも少しおかしいのですが、そのような部分を考えてみると、豊かな心プラス、たくましいといいますが、強い心というようなそのような言葉がありますと、たくましく、少しのことにめげない精神力というのでしょうか。そのようなものが文言としてうまくいい言葉で入るといいかなということを少し感じました。

委員 恐らくこちらは、文部科学省等が出している資料の中で、生きる力とはという定義をしている中に、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」というキーワードは出てきていますので、それを用いられていると思うのです。こちらの調和がとれた人を育成することが大事だというふうに定義づけられているはずなのです。ですから、個々にこちらをやるというだけではなくて、それが全部兼ね備えられていて、バランス良く育っていくということが大事であるということも含めて、考えていくということなのです。もし、葉山が生きる力という言葉だけを別に定義するのであれば、それを定義し直さなくてはいいなくなってしまいますので、またそこに議論が必要になってくるのかなという気はいたします。

委員 分かりました。

会長 文科省が言っていたとしても、よく読みますと、「確かな学力」から入るのがいいのかなというところは、少し議論はありますけれども。

委員 こちらにつきましては、議論の過程でこの1個前のところでは、どちらかといいますが、関心・意欲・態度から話が始まっていたプランが先にありまして、その後で学力低下ですとか、いろいろな議論があった歴史の中で、やはり学力は重要だということが出てきます。では確かな学力とは何かということに、知識や理解だけではなく、子どもたちが自分で思考して、判断してそれをまた表現できたり、学びたいという態度などが確かな学力という言葉の中に入っているということが、こちらは一応定義として出てきているものです。ただ、知識、理解があるということではないということです。

会長 了解しました。それはそれで尊重します。ただ、その三つをこのように並べると、「確かな学力」だけが前に出てしまうのですから、この三つが総合的に育まれていることです。

委員 そうなのです。調和がとれているということが大事で、これだけがというふうには書きませんと、1、2、3というふうに見えてしまうのが、そこを少し調和がとれたというようなことを入れたほうがいいかなと気がいたします。

会長 事務局に宿題として残します。可能な範囲で工夫をご検討ください。あとはいかがでしょうか。お願いします。

委員 施策の方向性と申しますか、中身の中で、若者の雇用の確保や、女性の就労支援などそういった視点もあったほうがいいのかなと思います。例えば、10ページ目の子育てのところだと、やはり女性の就労支援ということも国などでもいわれていますし、そういった支援です。あるいは、15ページ町内産業のところでは雇用の確保に取り組むという表現があったほうが、例えば将来的に高齢化が進む中で、若年層の定住促進という意味でも施

策を考える中でつながるのかなというふうに思います。次は、12ページの基本目標5の9番の水環境のところなのですが、これは公共下水道は町で整備されているのですか。であれば公共下水道の整備推進と、合併浄化槽の普及促進という表現のほうが正しいのかなというふうに思います。あともう一点ですが、14ページの14番の居住環境のところなのですが、こちらで文章であるのは、例えば緑や公園という住むところの周辺のことしかいってありませんので、適切な住環境、住むところの環境整備です。例えば空き家に対する施策やそういったところも今後必要でしょうから、住環境の整備という表現もあったほうがいいのかなというふうに考えています。最後14ページの16番のところなのですが、だれもが利用しやすく公共交通の形成に取り組みますという形なのですが、まず大事なのは、今の公共交通を守ることがまず大事です。例えば、他の取り組みですと、住民がやること、市町がやることという形で分けてありますので、例えば公共交通の利用促進に努め、既存の公共交通機関の維持確保に努めるとともに、だれもが利用しやすくという形でつなげるという形で住民がやることと、町がやること、ということをごちらでも分けて書いておいたほうが取り組みとしてつながるというふうに思います。以上です。

会 長 ありがとうございます。最初以外は多分、技術的に直せると思います。最初のところは、少しだけ間に入って申し上げますと、労働政策を市町村は政策として持っていないのです。ですから、その部分でどのようなことがどのくらい書けそうかというのは、こちらでは中で議論してください。つまり、書けたほうがいい、町民にとっては書けたほうがいいのですけれども。町の行政と住民との関わりの中で、町がそのことで何か一步でもあるいは、何かができるかどうかということとセットになる話で、住民の活動を支援する形でもいいから何か労働政策で雇用の確保について可能性があるなら、書き込みをすればいいです。全く駄目でしたら駄目であったということをごちらのタイミングで言ってください。それでもいいですよ。少なくとも間違いなく、総合計画の中で検討したということと、それからどのような方法が可能かということを検討したという形は残したいと思います。私が知っている限りでは、他の自治体でも雇用政策というところを市町村でダイレクトな政策として持っていないので、統計もないわけです。統計はハローワークが持っているわけですからそれも含めて考えたときに、可能かどうかを宿題で残します。

委 員 次世代というところであれば、ニートなどの問題がありますから。

会 長 それはつまり教育というようなアプローチもあれば、あるいは、発達障害系の人に対する福祉的な支援というようなところも可能性としてはありますので、それも外縁部にそのようなことがあるということを前提で、どのようなことを具体的にできるかを少しイメージした上で、ご検討ください。繰り返しですが、これは基本構想になりますので、基本構想の段階で具体的なところをごどこまで書くのか、それから、当たり前ですがけれども、その下には基本計画がありますから、例えば政策レベルの話は基本計画に落ちるのだらうと思います。ですから、今の話は方向としてはこれなのかなという気がするのですけれども、当然ですがけれども、最初の段階ではセットになっています。基本構想と基本計画は印刷物としてはセットですよ。

事務局 構想が頭に付いてその下に基本計画が一緒です。

会 長 一緒になりますよね。実施計画は実施計画でまた別刷りになるのかもしれませんが、ということであれば、これも宿題にしておきましょうか。基本計画に向けて、どこまで何が書き込めそうかを町の中で議論してくださいという宿題になるかと思います。もう少しここで書ければ書いても構いません。難しければ、それは基本計画の中で政策レベルで書けるものを考えていただくということも、一緒に出てくれば同じことですよね。中身が見えた具体的なものが提示されればいいというご意見、そのような委員の意見だと思しますので。それはどのレベルでやるかということで、一つここをもう少し書き込む方法もあれば、計画の段階でセットで印刷物になるのだから、その先の段階で議論するという方法もあって、担当のセクションへその宿題をお投げいただくということです。ご発言いただいている方を優先にしたいと思うのですけれども。

委 員 確認したいことがあるのですけれども。行政運営編です。情報の連携なのですけれども、これは情報の収集とその共有という認識でよろしいのでしょうか。もしよければそのような文言をお願いします。

事務局 今のご質問で、そうです。双方の情報の行政からの情報の例えば分かりやすい例で申し上げますと、広報の分かりやすい情報の提供や、ホームページの分かりやすい提示の仕方などです。また、広聴のほうですと、町民の方からのご意見をきちんと受け止める。その辺の連携をきちんとうまく取りながら、一緒にまちづくりをやっていくために、それは多分その情報の共有というところが一つ考える大事な土台になると思います。そこをきちんとやるということで、情報の連携という言葉を使わせていただいております。

事務局 少し補足させていただきますと、この計画を作るためのワーキンググループというものをやりましたのは、町としては多分初めての試みでやったのです。50名の方に参加していただきまして、三つのグループに分けてずっと協議をしてきました。いろいろな意見交換をして、先日この障害・福祉のほうの分野でも、障害をお持ちの方、それからそのご家族に対していろいろな意見交換をするような場を設けて、徐々に町の中でそのような、なるべくいろいろな方の意見に耳を傾けて、お考えを行政のほうに出していただくというような機会がいろいろなところで増えていけばいいなというふうに思っております。総合計画は一番町の最上位計画ですので、そこでそのような取り組みをしたということが一つの道しるべとなって、いろいろな課で計画を作る際に、紙面のアンケートだけではなくて、そのような取り組みができればいいなというふうにそのように考えております。

委 員 全く話は違うのですけれども、基本理念で、「街が躍動する葉山」です。街が躍動するというこの言葉が私は少し違和感があります。最初の基本理念の中の、静かで品のある落ち着いたまちと躍動となんか合わないという、どうなのかなと思います。今まで出てこなかった言葉ですので、唐突な感じがしました。

事務局 そうですね。やはり皆さんここはと思うところは大体同じようなところですね。実は、私もここはふさわしいかなと、先ほどゆったりとした時間が流れて、のんびりした空間がある葉山町、例えば小道があったり、海に続くそのような小さい道が国道沿いから見えたりというようなところをイメージされています。葉山に来た人が、「葉山はすごく静かでいいところだね」と。「昔はこういう町だったらいいよ」と言うので、葉山に住んでみたい

などと思ってもらえるような町がいろいろのたろうというイメージがございました。ワーキンググループをやった中でも、観光地のように、休みの日にザワザワ人が訪れてもらうのは困るのだと、それはウェルカムではないのだよという話がございました。本当に良質な空間がある葉山町が良くて、リピーターが休日は葉山でお昼を食べに行こう、夜ごはんを食べに行こう、自然の中で遊ぼうという人たちがそのうち葉山に住んでくれるというような、そのような町であるべきだという話がございました。そのようなところで申しますと、例えば、ものすごく町の中の人口が極端に減ってきて、これはなんとかしなければいけないなというところの自治体でしたら、ものすごく動きのあるというタイトルがいいかと思ったのですけれども、こちらの「躍動する」というところについては、少し私も今後直したほうがいいのではないかと実は思っているところです。もっとここに適したというか、今私がお話させていただいたようなワーキンググループのそのご意見も捉えたような、そのような表記の仕方のほうがいいかなというふうに思います。

会 長 今のところは、ペンディング、躍動するより輝くぐらいのほうが。

事務局 もしよろしければ、タイトルを考えていただくというのは。

会 長 輝くぐらいのほうがまだいいような気がします。

委 員 「人を育てる」、「暮らしを守る」ときているので、「街を何々」というような文章のほうがいいのかという気がします。

会 長 保留です。ペンディングしておきましょう。議論の中で、いい言葉が出たらそれを当てはめることで保留にしておきましょう。あと、発言していない方を中心に何か言い残している方いらっしゃいましたらお願いします。

委 員 8ページの基本目標のところなのですけれども、先ほどのお話の中で、今ここで政策と分野という部分が消えてしまいますと、縦割りありきになってしまうというお話があったのではないですか。今、この段階では基本目標でまた少しいろいろ出てくるのかなという部分もあるのですけれども、今の段階で、私としては生まれてからこの町で暮らして、学んで暮らして、死ぬまでというつながりの中で、この基本目標のばらつきと申しますか、連携がない、もう少しあってもいいのではないかと思います。さらに申し上げますと、今の時点で政策の分野を分ける必要がないのであれば、まだ今の時点で基本的にはまだ付けて考えていてもいいでしょうか。

会 長 今のイメージは、基本理念の人を育てるに、基本目標の1、2、3がぶら下がっているということですか。

委 員 そうということですね。ですから今はそのような感じではないですか。ですけれども、人を育てるといのはまた他のいろいろな面でも出てくると思いますので、どうしてもそこにぶら下げてしまうと、何か少しまた型にはまってしまうという感じもするのです。

事務局 実は、比較的今の第三次の計画がそのような感じだと思うのです。わりと子育ての分野も、例えば福祉施策でいう町の中でいう子ども育成課のところと、それから教育委員会の生涯学習の部分と両方子どもの関係で絡みます。さらに申し上げますと、例えば相談業務で児童の虐待があつたりなどそのようなところが随所に子ども、子どもがあちこちに出ているのです。そうしますと、行政の中のどこが所管していて、どこに行けばこのよう

な取り組みが分かるのかというところが非常に分かりにくくなると思うのです。一つ子どものことに関しても、前に葉山の中で虐待事例があったときに、葉山警察の人が葉山町は、子どもの虐待はここ、成人の虐待はここ、高齢の虐待はここ、障害者はここと一体どこに電話をすればいいのかという話がございました。福祉の窓口を1本に絞ってもらって、こちらのほうから内容を聞いて所管している課に振り分けますというような話をさせてもらったこともありました。ですから、恐らく同じ行政機関でもそのように分かりづらい部分がございます。一般の町民の方ですとさらに分かりにくくなって、恐らくいろいろなところに子どもに関することがその側面で書いてありますと、いいと思う人と、こっちにも書いてあるし、こっちにも基本構想ですからボワツとしたことが書いてありまして、ではこれはどこの課に行けばよく分かるのかということが分かりません。また、先ほど機構改革の話になったのですけれども、役場の1階の窓口が今、何課、何課と書いてあるのですけれども、そのサインを少し改めていこうかという話が今出ております。その中で、例えば証明書を発行するのはここ、子どもに関することはここ、保険、医療に関することはここというような形で何課、何課というネーミングは行政内部が分かっていたらいいことで、一般の来庁者に関しては、例えば福祉のことで来たとおっしゃったら、福祉の中に児童も障害も高齢もあるというところで、福祉課という名前ではなくて、福祉に関すること、医療に関すること、保険に関することというような見せ方をすべきなのかなというふうに思います。今、横浜市の区役所などもみんなそのようになっておりますし、そのようなことを少し考えております。やはり、ここにも書いてあった、あそこにも書いてあったというよりも、しつこいようですけれども、より分かりやすく見ていただくために、子どもの部分に関してはこのカテゴリーに書いてあるというふうに分かってもらえたほうが、見る人がみやすいかなというところはございます。

事務局 今の補足という形なのですけれども、今回の計画は、今伊藤課長が申し上げたとおり、2ページ目に先ほど基本姿勢を四つ掲げた中で、「めざす姿や目標が明確で、だれにでも分かりやすく、使いやすい計画」そういった今の三次の検証のもとにこのような形で作り、そもそも始めたところがございます。ただ一方で、委員がおっしゃるとおり、確かにきれいにくれない部分は必ずございます。そこが先ほど冒頭に近藤委員からもご指摘がございました、横の横断的な取り組みの考え方はどうなのですかというところだと思っております。そこにつきましては、第三次が重点プロジェクトという言い方で、その各縦の施策を横に串刺しするような形で、例えば、人が育ち、人が生きる。人に関することは横断的に捉えるような、恐らくどこの施策にもそのようにかかる部分があると思っております。きれいには分けられないと思いますので、そこは見せ方、説明の仕方だと思います。そのご意見を踏まえた中で、先ほどの冒頭のA3の参考資料の中で、基本計画の右側の範疇なのですけれども、重点的な取り組み(仮称)ということで、先ほどご説明を基本計画の範疇ですので出さなくて申し訳なかったのですけれども、町を串刺しするような重点的な取り組みは、こちらで吸収できるのかなと思います。ただ、示し方は今度皆さまにもご相談しながら、考えていきたいと思っております。

議題（２） 「第四次葉山町総合計画」策定に向けた中学生アンケートについて

（説明）

事務局より資料２に基づき説明が行われた。

議題（３） 基本計画書の大まかなイメージ（案）について

会 長 最後が議題の（３）なのですが、基本計画書の大まかなイメージ案についてということになります。この後の作業は、町のほうで何を想定しているかと申しますと、基本構想について、今日まだ完全に議論は終わっていませんが、あるレベルまでは深まったということです。ですから、ここで直せるところは直していただいた上で、この下の基本計画についての作りこみを町としては作業を始めるということになります。その作業を始めるにあたっての、その枠組み作りが資料３になるかと思えます。もう一度繰り返しですけれども、この後、基本計画の議論をしていくことで、結果として今日の基本構成に戻って直さなければならぬことが出れば、それはその段階でもう一度おっしゃっていただくということになりますので、それがありであるということです。１回柔らかい形ですけれども、取りあえず次の作業のための土台、まだ崩れる可能性がございますから、土台として１回仮置きをするというレベルでご理解いただければと思います。それではそのようなことを前提で、資料３のご説明を事務局のほうからお願いします。

（説明）

事務局より資料３に基づき説明が行われた。

会 長 ありがとうございます。最後に、今日どうしてもこれだけはというのはありますか。

委 員 先ほど申し上げ忘れてしまったのですけれども、将来像の中で、心のふるさとという言葉が少し私は引っかかっております。というのも、実際にそこで産み育てて暮らすので、実際としてのふるさとであって、心のふるさとと申しますとどこかよそに住んでいて、葉山がここのふるさとなのだというイメージを持つような気がしてしまったので。もし、ふるさととして、葉山を育てていきたいというのであれば、心を取ってまちが輝くふるさと葉山でいいのではないかと感じてしまったのですけれども。

会 長 今のは基本構想の６ページの部分になるかと思えます。ここは、まだ確定がしていないという理解でいいですね。今の意見は記録に残しておいてください。つまり、もしかしたらこれは直したほうがいいのかもかもしれません。あるいは、三つの中で選ぶのか、三つの中の書き方をうまく組み合わせて別のものを作るのか。できあがったもので、作り上げていくプロセスの中で一番いいものがこういうものは大抵自然に決まりますので。今の段階では確定させないでおきたいと思います。

閉会

会 長 今日はどうも大変ありがとうございました。次回も活発な意見交換ができることを期待しております。どうぞよろしく申し上げます。ありがとうございました。

以上